



秋を告げるパイネイラの花

ブラジリアの風



ヴァルゼンボニータ礼拝後のグループで祈る

「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。」

ガラテヤ2:20

日本の皆さまの尊いお祈りとご支援に支えられ、今月もブラジル宣教の恵みを分かち合えることを感謝申し上げます。5月半ばにはブラジリアでは例年にない真冬日となり「1.5°C」を記録。霜が降りる地域もあり地球規模の気候変動が危惧されますが、通りには日本の桜を思わせるピンク色のパイネイラの花が咲き、心を温めてくれています。

5月22日、3回目となるヴァルゼンボニータでの礼拝が開催。地元住民13名、合計36名が集いました。説教後、グループに分かれてヴァルゼンボニータの方々の「話を聴く」ときを持ちました。移民として来られた経緯やこれまでの生活、現在の困難などを伺うなかで互いの信頼関係が深まっていくと感じました。あるご婦人は、最初に入植したボリビアの教会で16歳の時、信仰をもって洗礼を受けていたことを告白してくださいました。今の家族にはだれにも話したことがないという「洗礼」の事実。しかし、その信仰はご婦人の中に生き続けていました。今後の交わりが深まり、その信仰が豊かに用いられますように。

もう一つ、嬉しいお知らせがあります。前回、祈りに覚えていただいた90歳の上野秀（ひいず）さんが、明確な信仰告白に導かれました。5月初旬、腸の不調で緊急入院、二回の手術を経て相当の衰えを覚えておられましたが、5月24日に病室を見舞うことが許されました。携えていった御言葉はガラテヤ2:19-20。「私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです」。両手で目頭を押さえて泣き始める上野さんが目の前におられました。そして上野さんは「キリストに頼るほかない」とはっきりと信仰の告白をされました。ご家族と教会の長年の祈りが実を結んだ瞬間でした。上野さんのご快復と信仰のために引き続きお祈りください。

入院前の上野さん（3月末）



【近況と祈りの課題】

・ヴァルゼンボニータ開拓：地域の中から主を求める人が起こされています。互いの信頼関係とともに主への信仰が芽生え、成長していきますように。現在、吉田宅のガレージを利用したの礼拝ですが、毎週礼拝できる会堂が与えられますように。関わりのある日系家庭が神の家族に加えられるように（岩切家、前添家、宮原家、川村家、小山家、伊藤家、仲村渠(なかなだかり)家、中嶋家、加野家、園田家、伊波家、安田家、新保家、上間家、比嘉家、木村家、仲田家、小野家、岩川家、北原家、渡辺家ほか）

・ブラジリア教会：安井敏明エドアルド牧師、弘子夫人の健康と牧会の祝福。コロナや病で家族を失った兄姉の癒しと回復、経済的な危機に直面している兄姉のために。病床で信仰告白された上野兄弟の快復と信仰のため。

・エストルトラウ教会：貧困地区にある開拓中の教会で様々な戦いがあります。クラウドミール牧師は会社で働きながら教会開拓をしていましたが、2年前奥さまをガンで亡くし、パンデミックで会社の仕事も失いました。

・浜田ファミリー：家族全員の健康が守られるように。長男はブラジリア大学の医学部に合格が確定、お祈りに感謝いたします。四男は生きにくさを抱えて療育中、主の支えと癒し、ふさわしい成長が日々与えられますように。家計が守られ、指定献金が満たされますように。

【一時帰国のお知らせ】

7月の一ヶ月間、諸手続きのため一時帰国を予定しています。今回は私（献）一人のみでの帰国ですが、留守中の家族が守られ、私の旅路も守られるようにお祈りください。

2022年6月2日 浜田献、陽子

「浜田宣教師指定」献金の感謝とご報告

(3-4月) 指定献金: 523,500円 (累計: 854,000円)
*現地支援: 153,050円 (累計: 250,970円)
合計: 676,550円 (累計: 1,104,970円)

2022年目標額: 350万円 (現地支援を含む)

(*現地支援: 主に日本語教師の謝儀、外部説教奉仕謝礼など)
*尊いご献金をささげてくださいましたお一人ひとりに心から感謝申し上げます。主の祝福を祈ります。

*オンライン宣教報告 (説教、宣教の証し等)

礼拝や祈祷会でのご奉仕を随時承っておりますので、お気軽にお問い合わせください、お招きください。

kenyokomario@yahoo.co.jp